

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000661		
法人名	有限会社あかつき		
事業所名	グループホームあかつき		
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南18073番地1 (電話) 0983-47-0860		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月23日	評価確定日	平成21年8月28日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした田園風景の中に、ホームは建っており、玄関周りには色とりどりの花が植えられ、手入れが行き届いている。また建物の隣には菜園があり季節の野菜が実をつけている。地区会に加入し、地元の人々との交流を深めている。職員は、研修や災害訓練には積極的に参加している。家族会の組織もあり意見や苦情の出しやすい環境作りにも努めている。落ち着いた雰囲気の中で、職員と利用者の穏やかな暮らしが見て取れる。

## 【重点項目への取組状況】

### 【情報提供票より】 (平成21年6月26日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤12人, 非常勤5人, 常勤換算6人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

#### (4) 利用者の概要(平成21年6月26日現在)

利用者人数	15名	男性 3名	女性 12名
要介護1	1	要介護2	5
要介護3	6	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85.5歳	最低 72歳	最高 100歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高嶋医院、川南病院
---------	-----------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では課題が5項目あり、既に3項目が改善されている。現在、管理者と職員により、残る2項目の改善について取り組みが行なわれている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員がそれぞれ自己評価に取り組み、それを持ち寄って検討している。評価の意義については十分理解し、サービスの質の向上に取り組む意欲が見える。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年に3回開催され、外部評価で課題となった項目や、今後の改善に向けた取り組み、災害対策や地域交流などについて出席者と活発な意見交換が行われている。運営推進会議を行うことにより、地域や行政との交流が広がり、運営に反映することができている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪時には近況報告を行い、遠方の家族に対しては文書にて近況報告やホーム便りを郵送している。家族会を開き、家族からの意見を収集したり、玄関には意見箱を置く等、家族等の思いを引き出す努力を重ねている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区会に加入しており、回覧板を通して地域の情報を取り入れている。また地区の行事への参加や、ホームの行事への参加を働きかけている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	大きなキャッチフレーズを3つあげ、それを基に細かな目標を定め、地域の中でその人らしく、安心して暮らし続けていける理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については十分に理解ができており、ケース会議や日々の生活の中で理念を確認しており、利用者本位のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区会に加入しており、地区の夏祭りや、その他の行事にも積極的に参加している。またホームの行事にも地区住民の参加を呼び掛けるなど交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの向上に努めている。また、外部評価を前向きにとらえ、課題となった項目については改善シートを作成し、具体的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回定期的に行われ、現状報告、評価への取り組み状況、地域交流等について報告や意見交換を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの現状や相談など、積極的に連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪の際に近況報告を行い、電話での連絡、また、遠方の家族には郵送で様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会の中で、意見や苦情を引き出せるような雰囲気作りに努めている。意見箱も玄関に設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1回ホーム間での職員異動が行われている。同じ事業所内ということで顔なじみでもあるが、利用者には不安を与えないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修会や町主催の勉強会、また、ホームに講師を招いての研修など積極的に参加している。スキルアップを目指している職員もあり、管理者は理解を示している。	○	研修の報告を行い、研修報告書及び復命書を作成し、全職員が閲覧できるようにファイルに残し、研修の成果が生かせる努力が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームでの持ち回りの勉強会や、地域内・外のホーム同士の交流に積極的に参加している。これら意見交換等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とともにホームの見学や、体験利用でホームの雰囲気になじみ、安心してサービスが受けられるように、家族等と相談しながら工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員という関係ではなく、日々の暮らしの中で、人生経験の豊かな先輩として利用者に学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を言葉や表情からくみ取り、引き出すよう努力がなされている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を取り入れ、アセスメントやモニタリングを重ね、職員の意見交換を行い、利用者本位の介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者を担当する職員の記録や、日々のケアの中での変化を見極め、見直しを行い、新たに現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じ外出、外泊の支援を行っている。利用者の退居後の支援も柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望を大切にし、掛かりつけ医の受診をしている。家族の同行が困難な場合は、職員が行っている。掛かりつけの医師との連携も取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に対応すべく、必要な職員も確保し、今後を見据え家族の要望に沿えるように徐々に準備を進めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応に十分な注意を払っている。個々の記録の取り扱いには特に留意をしており、徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気分に合わせて、利用者のペースを大切にし、希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて食事の準備をしたり、菜園で取れた季節の野菜で一品加えるなどの工夫をし、職員も同じものを食べながら見守りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる体制にある。拒否がある場合は無理強いせず、利用者に合わせて対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園での野菜作り、草取り、季節の花の植栽などを楽しんでいる。買物や、年に1回は温泉に遠出し、入浴と食事を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に合わせ、散歩に出かけている。時にはコースを変えるなどして、変化を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず見守り、一緒に行動するなど利用者の安全に心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。職員は、毎月交代で消防署で行われる訓練にも参加し、心肺蘇生や救急通報などの訓練を受けている。	○	夜間における災害の訓練がまだ実施されていない。地域の消防団や地域住民の協力を仰ぎながらの訓練の実施を望みたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要な水分量や食事量はチェックし、記録に残されている。また、専門の管理栄養士の指導も受けており、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングと続く広い空間があり、ゆったりと落ち着いて過ごせる雰囲気作りがされている。自然の光と風が心地よく入ってくる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたタンスを持ち込んだり、家族の写真が飾ってある部屋と、シンプルな空間を好む利用者がとあり、それぞれが居心地よく過ごせるよう、一人ひとりの好みに合わせた居室になっている。		

※  は、重点項目。